

コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

No.36 2016年 8月号

倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
〒712-8024 倉敷市水島北春日町4番3号
TEL 086-444-3212
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-446-6541

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

新築移転を歓迎する 私たちの紹介

社会福祉法人きょうどう福祉会
理事長 中丸 雄司



中丸 雄司

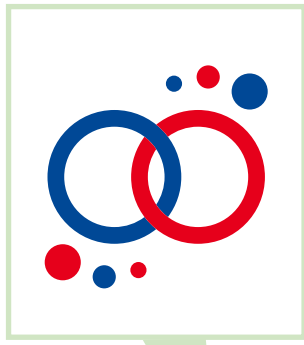
1997年水島に「ケアハウスをつくる会」が発足し、千鳥町の町内会長さんをはじめ地域の皆様とともに法人設立に向けて準備を進めてきました。現在も地域の皆様には引き続き、理事会や評議員会、運営推進会議、施設の行事やボランティア参加など多様なご協力をいただきながら運営に携わってくださっています。

2003年7月に50床のケアハウスちどり開設、いままも常に満床の状況です。

2010年20床の地域密着型特別養護老人ホームもちどり開設、現在まで362件の申し込みをいただきました。昨年4月より要介護3以上でないとい入居できなく

たくさんのご応募ありがとうございました。ご意見などを参考に完成させることができました。コープリハビリテーション病院と老健あかねが手を携えて地域と連携・共存するイメージをロゴマークにこめました。

事務局長 笹館 勝人



ロゴマーク決定



ロゴマークは南東と北西の壁面に設置予定。建物の南に三菱重工を臨む。



建設の状況

外来診察室の様子

なり、要介護3以上の方で102名の申込みをいただいております。常時満床状況です。

きょうどう福祉会は、水島南診療所など倉敷医療生協の事業所と常に連携している安心感があります。コープリハビリテーション病院の建設が目の前で進んでいるのを見るにつけ、さらにも身近

後の生活を支えるヘルパー利用、特養への入退院の推進、併設される病院歯科診察が可能になれば、特養・ケアハウス入居者も安心して治療が受けられることなど期待するものは無限です。

また、リハビリテーションの学習会や各種行事などへ参加させていただく機会があれば

に感じています。そして、ケアハウス入居者の通所リハビリの利用や、急性期医療から病院的回復期への入退院の連携、退所

職員同士の交流が一層深まり、さらに密接に連携できるのではないかと期待しています。



移転先の7階からもちどり、ケアハウスちどりを臨む

回復期リハビリテーション病棟で生活機能向上と称して単純な訓練だけして家に帰られるケースは稀です。患者さんだけでなくご家族の気持ちも掘り下げ、ご負担を最小限にする提案も必要だからです。だから住宅改修という単純で物理的な作業だけでは不十分です。

患者さん個人の価値観や家族の協力がどのくらいか?など、多方面の視点を持つていないと折角退院しても不満足な結果に終わってしまいます。コープリハビリテーション病院の特徴は、単純な訓練にとどまらない複線的介入です。



紫原 ちほ

患者さんと家族の気持ちをすり合わせるのもリハビリの仕事
— 複線的介入で在宅支援 —

患者さんの自立に必要なこと



複線的介入の模式図

い、経済的問題や在宅中の訪問サービスなどのバックアップは多職種にお願いしています。チームに支えられながら、患者さんを単に住まいに戻すという使命感をもって頑張っています。

コープリハビリテーション病院
理学療法士 紫原 ちほ

入院や入所に際して、部屋代はいただいません。



松下 朋美

熊本地震災害支援報告②

今回AMDAから岡山県老人保健施設協会へ介護職員の緊急派遣要請があり、当施設からも職員2名を熊本の介護施設へ派遣いたしました。

前任者の木元さんに続いて、5月20日から24日まで特別養護老人ホームシルバールピアさくら樹(さくらぎ)に派遣されました。

避難所の中にはマットレスを3枚重ねたベットで過ごされる方もおられました。私が派遣されて2日目にこの



アスファルトがめくれたゴミ捨て場

マットレスが崩れ、避難者の方がマットレスごとずり落ちることがありました。幸い怪我はなかったのですが、後日ボランティアに来られた作業療法士と相談し、マットレスを入れ替えて安心して過ごしていただけたように思いました。この施設では曜日によって避

難所の方にお風呂を解放されているようで、多くの方が利用されていました。多くの方から「お風呂に入れて嬉しい」との声が聞かれました。

私が派遣されたときには少し状況が落ち着いていた様子でした。外出される方が多く、フロアにほとんど人がおられない状態でした。家の片づけに行ったり、息子さんと罹災証明の用紙を書いたりされている光景が見られました。仮設住宅に入るための相談をされる方もおられました。

系列施設の方が夜勤支援に來られ、震災直後の大変な状況をお話して下さりました。ライフラインが途絶え1日に9時と16時の2食しか食事が配給されなくなり、利用者様から「ご飯を食べない」と、言われてとても辛かったと話しておられました。そんな生活がゴールデンウィーク明けまで続いたそうです。

熊本と、シルバールピアさく



体育館の仮設トイレ

ら樹の一日も早い復興を願わずにはいられません。老健あかね 介護福祉士 松下 朋美



お別れの日 被災者の皆さまと(筆者前列左から2番目)



石原 浩子

院内学術運動交流集会報告 3 病棟 やっぱり最後は家族のちから

今回の症例は、家族としての関わり方、医療者として患者様や家族とどう向き合い関わっていくべきか、改めて看護について考えるきっかけとなりました。

患者様は入院当初、意思疎通がはかれず、ベッドからの転落やチューブ類などの自己抜去の危険があり患者様の安全を優先して抑制を余儀なく行っていました。

毎日家族の方の面会があり、家族が車椅子を押して散歩に行かれたり、以前一緒に旅行に行った時のDVDを見ては家族の時間を大切にされていきました。次第に意思疎通が良

好になることで抑制がいらなくなりました。

患者様の回復と共に、家族の目標は自宅への外出となりました。そのためには吸引や栄養注入が出来なければならず奥様に指導を行いました。

まづ書面で説明してから一緒に行いました。実際にしていただく事で奥様の不安も軽減していきました。そして短時間ではありますが自宅まで外出する事ができ今では外泊も出来るようになりました。

どんな状況でも常に前向きで笑顔を絶やさず関わってこられた家族に、私達は驚きもりましたが、続けていきたいと思えます。参加してみたいボランティア、大募集!



紙芝居を読んでいる斎藤恵子さん

ボランティア紹介

「おはなしと歌の会」
代表者 斎藤 恵子



参加されている利用者さん

緒に季節の童謡を歌ったり、紙芝居を見たり、昔なつかしいお手玉やあや取りなどをしたりしています。おやつのお茶の間になるとテーブルを囲んで、いろいろな世間話をしたりして、和気あ

今年3月から月一回、「おはなしと歌の会」というボランティアを立ち上げ、第2曜日の午後にもう一人のボランティア、坂本雅子さんと2人でボランティアをさせていただきます。

今年3月から月一回、「おはなしと歌の会」というボランティアを立ち上げ、第2曜日の午後にもう一人のボランティア、坂本雅子さんと2人でボランティアをさせていただきます。

○お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212 (代表)
受付時間 8:30~17:00
(土日祝・年末年始を除く)
〒712-8024
倉敷市水島北春日町4番3号
ホームページ
http://coopreha.jp/
メールアドレス
info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹舘 勝人

新入職員紹介



コープリハビリテーション病院
1病棟 介護福祉士
梶原 一枝



老健あかね
通所リハビリ 介護福祉士
花田 寛子



家族との思い出をスケッチされているところ

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。